

科目名	英語1A (Reading 1) P	単位数	1単位	学期	前期
担当教員	高橋 康浩	実務経験の有無		×	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-31-A-1-130111	経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること			
授業の目的	標準的な難易度のテキストを読みながら英語の文章に慣れていくようにする。これまでの英語学習も踏まえながら、英語の感覚に慣れていくことによって、英語のサイトを頻繁に検索できるようにする。そのことが日本語のみに限定されない情報収集能力を高めることになる。英語を通じて、国際社会の一員であることを強く自覚できるようにする。キーワード PBL				
学修到達目標	授業計画をできるだけ完遂するようにする。できれば教科書を最後までやり遂げたい。各学生が予習をよくやっていればこの目標が達成されて、一つのことをやり遂げたという、ある程度の充実感を得られるだろう。				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	授業のガイダンス、学習方法の説明。
第2回	unit 1 の学習 予習は分からない単語などをあらかじめよく調べておくこと。辞書をよく使うようにする。1時間くらいかけるとよい。復習はテキストの文章がきちんと自分で理解できているか。もう一度訳してみるのがよい。
第3回	unit 2 の学習 予習は分からない単語などをあらかじめよく調べておくこと。辞書をよく使うようにする。1時間くらいかけるとよい。復習はテキストの文章がきちんと自分で理解できているか。もう一度訳してみるのがよい。

第4回	unit 3 の学習 予習は分からない単語などをあらかじめよく調べておくこと。辞書をよく使うようにする。1時間くらいかけるとよい。復習はテキストの文章がきちんと自分で理解できているか。もう一度訳してみるのがよい。
第5回	unit 4 の学習 予習は分からない単語などをあらかじめよく調べておくこと。辞書をよく使うようにする。1時間くらいかけるとよい。復習はテキストの文章がきちんと自分で理解できているか。もう一度訳してみるのがよい。
第6回	unit 5 の学習 予習は分からない単語などをあらかじめよく調べておくこと。辞書をよく使うようにする。1時間くらいかけるとよい。復習はテキストの文章がきちんと自分で理解できているか。もう一度訳してみるのがよい。
第7回	unit 6 の学習 予習は分からない単語などをあらかじめよく調べておくこと。辞書をよく使うようにする。1時間くらいかけるとよい。復習はテキストの文章がきちんと自分で理解できているか。もう一度訳してみるのがよい。
第8回	中間テスト
第9回	unit 7 の学習 予習は分からない単語などをあらかじめよく調べておくこと。辞書をよく使うようにする。1時間くらいかけるとよい。復習はテキストの文章がきちんと自分で理解できているか。もう一度訳してみるのがよい。
第10回	unit 8 の学習 予習は分からない単語などをあらかじめよく調べておくこと。辞書をよく使うようにする。1時間くらいかけるとよい。復習はテキストの文章がきちんと自分で理解できているか。もう一度訳してみるのがよい。
第11回	unit 9 の学習 予習は分からない単語などをあらかじめよく調べておくこと。辞書をよく使うようにする。1時間くらいかけるとよい。復習はテキストの文章がきちんと自分で理解できているか。もう一度訳してみるのがよい。
第12回	unit 10 の学習 予習は分からない単語などをあらかじめよく調べておくこと。辞書をよく使うようにする。1時間くらいかけるとよい。復習はテキストの文章がきちんと自分で理解できているか。もう一度訳してみるのがよい。
第13回	unit 11 の学習 予習は分からない単語などをあらかじめよく調べておくこと。辞書をよく使うようにする。1時間くらいかけるとよい。復習はテキストの文章がきちんと自分で理解できているか。もう一度訳してみるのがよい。

第14回	unit 12の学習 予習は分からない単語などをあらかじめよく調べておくこと。辞書をよく使うようにする。1時間くらいかけるとよい。復習はテキストの文章がきちんと自分で理解できているか。もう一度訳してみるのがよい。
第15回	unit 13の学習 予習は分からない単語などをあらかじめよく調べておくこと。辞書をよく使うようにする。1時間くらいかけるとよい。復習はテキストの文章がきちんと自分で理解できているか。もう一度訳してみるのがよい。
第16回	期末試験

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	予習は分からない単語などをあらかじめよく調べておくこと。辞書をよく使うようにする。1時間くらいかけるとよい。復習はテキストの文章がきちんと自分で理解できているか。もう一度訳してみるのがよい。
【復習】時間・内容	復習はテキストの文章がきちんと自分で理解できているか。もう一度確認のために訳してみるのがよい。時間をとくにかける必要はまったくない。復習にダラダラと時間をかけることなど、まったくもって愚の骨頂。完全に時間の無駄。そんなことよりも予習に重点を置き、積極的に次の課題を先手先手でこなすのがよい。先んずれば人を制す、である。この積極果敢な姿勢を経営学を学ぶ者たちは1年次から身に着けるのが大事である。いわば当日の授業が集中して復習をする時間となる。授業は一言も聞き漏らさないように緊張しながら臨むべし。それがよき復習となる。なおも分からないのなら教員に質問すること。

成績評価	
評価基準・方法	試験の直前は対策を行う。これがとても大事。定期試験60パーセント、小テスト20パーセント、授業態度・参加20パーセントで評価する。
フィードバック方法	要請があれば模範解答などを発表する。学生からの要請がなければその必要はないと理解する。権利は行使することが大事であり、権利の上に眠る者は救済されない。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	実習、実技、実験、フィールドワーク
教科書/参考書	静哲人、望月正道他、AMBITIONS: Elementary (金星堂)
受講上の留意点等	授業には必ず辞書を持ってくること。わからない単語はすぐに調べるようにする。辞書を使いこなせる人間になれるのか、ならないのかで人生はほぼ決まる。
JABEE	関連する学習・教育到達目標：B

科目名	英語1A (Reading 1) Q	単位数	1単位	学期	前期
担当教員	阿部 聡		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-31-A-1-130111	経営情報学部B：国際理解とコミュニケーションに必要な英語力の基礎があること			
授業の目的	様々なタイプの英文を読みながら、段階的に大学生にふさわしい英語読解力を高めていくことを目的とします。可能な限り正確に読むことを心掛けながら、読解のスピードも徐々に上げていくようにします。また、知っているはずの単語の意味や用法の再確認も行います。補助的にリスニングのトレーニングも行います。				
学修到達目標	英語の読解力向上を目指す授業なので出来るだけ多くの英語を読んでいます。辞書の助けを借りながら英語を読める基礎力の修養を本授業の学習到達目標とします。				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	イントロダクション Unit 1 Cross-Cultural Understanding
第2回	Unit 1 Cross-Cultural Understanding
第3回	Unit 2 Foods

第4回	Unit 2 Foods 小テスト
第5回	Unit 3 Foreign Language Learning
第6回	Unit 3 Foreign Language Learning
第7回	Unit 4 Sports
第8回	中間テスト Unit 4 Sports
第9回	Unit 5 Fashion
第10回	Unit 5 Fashion
第11回	Unit 6 Living Things
第12回	VELCテスト Unit 6 Living Things
第13回	小テスト Unit 7 Art

第14回	Unit 7 Art
第15回	Unit 1-7のまとめ
第16回	定期試験

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	1時間：Forms（など）への解答記入（部分的な和訳の課題やTrue/Falseの解答）を含みます。
【復習】時間・内容	1時間：予習時に不明だった点を中心に、読解過程の再確認をする。

成績評価	
評価基準・方法	【成績評価】定期試験=25%、小テスト・課題=40% その他=中間試験25%+VELCテスト10%
フィードバック方法	点数分布や平均点などをポータルにて公表し、講評を加える。VELCテストの結果は成績に10%反映させ、また後期のVELCテストの結果とともに次年度のクラス分けの資料とします。小テスト、課題は採点し講評を加えて返却する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	グループワーク

教科書/参考書	VELC研究会教材開発グループ（2018）AMBITIONS Pre-Intermediate 4技能統合型で学ぶ英語コース：初中級編、金星堂。 参考書として英和辞典（紙媒体、電子辞書、両方可）：ただし、試験の際に辞書持ち込み可とする場合には不正防止のため通信機能を持たない辞書に限って持ち込み可とする場合がある。
受講上の留意点等	言うまでもなく授業中の私語は厳禁です。授業は演習形式で行うので十分な予習が必要です。欠席5回以上で定期試験受験資格を失うので十分注意して下さい。辞書を毎回持ってくる。また、ロッカーなどにテキストや辞書を入れたままにすることのないように。忘れずに持ってくる。授業中にPCを用いる機会もありますのでこちらも忘れずに持ってくる。受講生の事前学習状況などにより、シラバス通りには進まないことがあります（講義ではなく演習であるため）。この点は留意してください。
JABEE	関連する学習・教育到達目標：B

科目名	英語1A (Reading 1) R1	単位数	1単位	学期	前期
担当教員	市橋 孝道		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-31-A-1-130111	国際学部B：高度な語学運用力をもって異文化理解の精神を研ぎ澄まし、国際社会において協調的にネットワークを拡張していく意欲と能力を身につけていること			
授業の目的	様々なタイプの英文を読みながら、段階的に大学生にふさわしい英語読解力を高めていくことを目的とします。可能な限り正確に読むことを心掛けながら、読解のスピードも徐々に上げていくようにします。また、知っているはずの単語の意味や用法の再確認も行います。補助的にリスニングのトレーニングも行います。				
学修到達目標	英語の読解力向上を目指す授業なので出来るだけ多くの英語を読んでいきます。辞書の助けを借りながら英語を読める基礎力の修養を本授業の学習到達目標とします。				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	イントロダクション Unit 1 Cross-Cultural Understanding
第2回	Unit 1 Cross-Cultural Understanding
第3回	Unit 2 Foods 小テスト

第4回	Unit 2 Foods
第5回	Unit 3 Foreign Language Learning 小テスト
第6回	Unit 3 Foreign Language Learning
第7回	Unit 4 Sports
第8回	中間テスト Unit 4 Sports
第9回	Unit 5 Fashion
第10回	Unit 5 Fashion
第11回	Unit 6 Living Things 小テスト
第12回	VELCテスト
第13回	Unit 6 Living Things

第14回	Unit 7 Art 小テスト
第15回	Unit 7 Art
第16回	定期試験

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	1時間。教科書本文の予習。
【復習】時間・内容	1時間。英文和訳の不明点を理解する。

成績評価	
評価基準・方法	【成績評価】定期試験=25%、小テスト・課題=40% その他=中間試験25%+VELCテスト10% 点数分布や平均点などをポータルにて公表し、講評を加える。VELCテストの結果は成績に10%反映させ、また後期のVELCテストの結果とともに次年度のクラス分けの資料とします。
フィードバック方法	小テスト、ワークシートは採点し講評を加えて返却する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	グループワーク/プレゼンテーション
教科書/参考書	VELC研究会教材開発グループ (2018) AMBITIONS Pre-Intermediate 4技能統合型で学ぶ英語コース：初中級編、金星堂。 参考書として英和辞典（紙媒体、電子辞書、両方可）；ただし、試験の際に辞書持ち込み可とする場合には不正防止のため通信機能を持たない辞書に限って持ち込み可とする
受講上の留意点等	言うまでもなく授業中の私語は厳禁です。授業は演習形式で行うので十分な予習が必要です。欠席5回以上で定期試験受験資格を失うので十分注意して下さい。辞書を毎回持ってくる。また、ロッカーなどにテキストや辞書を入れたままにすることのないように。忘れずに持ってくる。こと。
JABEE	関連する学習・教育到達目標：B

科目名	英語1A (Reading 1) R2	単位数	1単位	学期	前期
担当教員	茅野 潤一郎		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-31-A-1-130111	経営情報学部B：国際理解とコミュニケーションに必要な英語力の基礎があること			
授業の目的	様々なタイプの英文を読みながら、段階的に大学生にふさわしい英語読解力を高めていくことを目的とします。可能な限り正確に読むことを心掛けながら、読解のスピードも徐々に上げていくようにします。また、既習の単語の意味や用法の再確認も行います。授業内容に応じて、講義形式、ペア活動、グループワークの形態を取ります。				
学修到達目標	様々なタイプの英文を正確に読み取ることができる。 正確に読むことを心掛けながらも、より速く読解できるようになる。 語彙を増やすことができる。				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	Introduction Unit 1 Cross-Cultural Understanding
第2回	Unit 1 Cross-Cultural Understanding
第3回	Unit 2 Foods

第4回	Unit 2 Foods
第5回	Unit 3 Foreign Language Learning 小テスト1
第6回	Unit 3 Foreign Language Learning
第7回	Unit 4 Sports
第8回	Unit 4 Sports
第9回	Mid-examination Unit 5 Fashion (introduction)
第10回	Mid-exam (解説) 小テスト Unit 5 Fashion
第11回	Unit 5 Fashion
第12回	VELC Test
第13回	Unit 6 Living Things

第14回	Unit 6 Living Things Unit 7 Art
第15回	小テスト Unit 7 Art
第16回	Final Examination

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	1時間 テキストの内容理解および練習問題を解く
【復習】時間・内容	1時間 学習したテキストの内容の理解度を確認する。音読練習をする。

成績評価	
評価基準・方法	60% Exams = 中間試験+期末試験 15% Vocabulary Quizzes 15% In-class activity/attitude 10% VELC Test ・VELCテストの結果を成績の10%に含みます。また後期のVELCテストの結果とともに次年度のクラス分けの資料とします。
フィードバック方法	・小テスト、中間テストについては授業にて解説をします。期末テストについてはポータル上でコメントします。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート
教科書/参考書	VELC研究会教材開発グループ (2018) AMBITIONS Elementary, Kinseido.
受講上の留意点等	<ul style="list-style-type: none"> ・英和辞典を必ず持参すること。持参しない場合は、授業に参加する意欲がないものとして扱われます。 ・出欠については厳格に扱います。教員による出欠確認後の入室は出席扱いにはなりませんので注意してください（特別な事情による遅刻についてはもちろんこの限りではありませんので申し出てください。）
JABEE	関連する学習・教育到達目標：B

科目名	英語1A (Reading 1) R3	単位数	1単位	学期	前期
担当教員	阿部 聡		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-31-A-1-130111	経営情報学部B：国際理解とコミュニケーションに必要な英語力の基礎があること			
授業の目的	様々なタイプの英文を読みながら、段階的に大学生にふさわしい英語読解力を高めていくことを目的とします。可能な限り正確に読むことを心掛けながら、読解のスピードも徐々に上げていくようにします。また、知っているはずの単語の意味や用法の再確認も行います。補助的にリスニングのトレーニングも行います。				
学修到達目標	英語の読解力向上を目指す授業なので出来るだけ多くの英語を読んでいます。辞書の助けを借りながらひとりで英文を読む基礎力の修養を本授業の学習到達目標とします。				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	イントロダクション Unit 1 Cross-Cultural Understanding
第2回	Unit 1 Cross-Cultural Understanding
第3回	Unit 2 Foods

第4回	Unit 2 Foods 小テスト
第5回	Unit 3 Foreign Language Learning
第6回	Unit 3 Foreign Language Learning
第7回	Unit 4 Sports
第8回	中間テスト Unit 4 Sports
第9回	Unit 5 Fashion
第10回	Unit 5 Fashion
第11回	Unit 6 Living Things
第12回	VELCテスト Unit 6 Living Things
第13回	Unit 6 Living Things 小テスト

第14回	Unit 6 Living Things Unit 7 Art
第15回	Unit 7 Art
第16回	定期試験

授業時間外の学習

【予習】時間・内容	1時間：Forms（など）への解答記入（部分的な和訳の課題やTrue/Falseの解答）を含みます。
【復習】時間・内容	1時間：予習時に不明だった点を中心に、読解過程の再確認をする。

成績評価

評価基準・方法	定期試験=25%、小テスト・課題=40% その他=中間試験25%+VELCテスト10%点
フィードバック方法	点数分布や平均点などをポータルにて公表し、講評を加える。VELCテストの結果は成績に10%反映させ、また後期のVELCテストの結果とともに次年度のクラス分けの資料とします。小テスト、課題は採点し講評を加えて返却する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	グループワーク

教科書/参考書	VELC研究会教材開発グループ（2018）AMBITIONS Elementary 4技能統合型で学ぶ英語コース：初級編、金星堂。 参考書として辞書（紙、電子辞書、電子辞書のコンテンツに相当する（品質が高く使いやすい）スマートフォンもしくはPCの辞書アプリ；ただし、試験の際に辞書持ち込み可とする場合には不正防止のため通信機能を持たない辞書に限って持ち込み可とする可能性あり）
受講上の留意点等	言うまでもなく授業中の私語は厳禁です。授業は演習形式で行うので十分な予習が必要です。欠席5回以上で定期試験受験資格を失うので十分注意して下さい。辞書を毎回持ってくる。また、ロッカーなどにテキストや辞書を入れたままにすることのないように。忘れずに持ってくる。授業中にPCを用いる機会もありますのでこちらも忘れずに持ってくる。受講生の事前学習状況などにより、シラバス通りには進まないことがあります（講義ではなく演習であるため）。この点は留意してください。
JABEE	関連する学習・教育到達目標：B

科目名	英語1A (Reading 1) R4	単位数	1単位	学期	前期
担当教員	辻 照彦		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-31-A-1-130111	経営情報学部B：国際理解とコミュニケーションに必要な英語力の基礎があること			
授業の目的	大学入学までに身につけた英語の知識を整理・再構成し、大学生にふさわしい読解力を修得する。国際理解とコミュニケーションに必要な英語力を身につける。				
学修到達目標	平明な英語で書かれた文書を正確に読むことができる。				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	ガイダンス & Unit 1: Cross-Cultural Understanding
第2回	Unit 1: Cross-Cultural Understanding
第3回	Unit 2: Foods

第4回	Unit 2: Foods
第5回	Unit 3: Foreign Language Learning
第6回	Unit 3: Foreign Language Learning
第7回	Unit 4: Sports
第8回	まとめと中間テスト & Unit 4: Sports
第9回	Unit 5: Fashion
第10回	Unit 5: Fashion
第11回	Unit 6: Living Things
第12回	VELC Test (予定)
第13回	Unit 6: Living Things

第14回	Unit 7: Art
第15回	Unit 7: Art
第16回	学期末試験

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	1時間。テキストのエッセイの意味確認と指定された練習問題の予習。
【復習】時間・内容	1時間。テキストのエッセイと練習問題の復習。プリントによる語彙の確認。

成績評価	
評価基準・方法	定期試験50%、小テスト・課題等25%、授業への参加15%、VELCテストの結果10%を合わせて総合的に評価する。
フィードバック方法	小テストやレポートの模範解答と講評を発表する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	実習、実技、実験、フィールドワーク
教科書/参考書	VELC研究会教材開発グループ、Ambitions: Elementary (金星堂)
受講上の留意点等	無断欠席・遅刻は絶対にしないこと。
JABEE	関連する学習・教育到達目標：B